

榎本ファーム

明石市

委託先：就労継続支援B型事業所

主な作業内容
収穫野菜の袋詰め



農福連携を視野に入れて本格就農 障害者の社会参加に貢献したい

代表の榎本浩久さんは、20代で鬱(うつ)を発症し、周囲の多くの人の助けで社会復帰しました。父親が野菜作りをしていたこともあり、2022年から本格的に就農。「自分がもらった恩を今度は誰かに返したい」、そんな“恩送り”の思いから、障害者が社会参加できる農福連携を考えていました。

まずは除草作業でインターンシップを行い、福祉事業所の支援員が利用者の個性や能力を見極めて適切に指導していると実感し、委託を決めました。現在は月に2回程



度、収穫した野菜の袋詰め作業を委託。“量る→詰める→シールを貼る”の作業を、支援員が適材適所に利用者を配置することでスムーズに作業が進んでいます。

ハウス20a・露地150aで、キャベツやブロッコリーなどの葉菜類や根菜類、枝豆などを栽培する榎本ファームは妻と両親の4人で運営。作業を委託することで家族の生活に時間的なゆとりが生まれ、今後は、枝豆の定植や収穫など、委託する作業内容や量をさらに増やしていく予定です。

作業上の工夫点や報酬について

委託したい作業ごとにインターンシップを実施。支援員との打合せを密に行うことで作業の理解度を深めてもらい、適切な指導に繋がっています。また、野菜をきれいに掃除し丈を揃えて袋詰めしやすい状態にしたり、袋詰めの重量をどの野菜も200グラム前後に統一して障害者が計量しやすいような配慮をしています。

報酬は、70代の母親の1時間当たりの作業量を基準にして賃金を算出し、出来高払いとしています。



代表の榎本浩久さん夫妻と両親

(2023年2月取材)